

# めぐみ

2022年  
1月号

学校法人 聖公会北関東学園  
認定こども園  
初雁幼稚園  
〒350-0057 川越市大手町 8-5  
Tel.222-5385 Fax 228-5010

## 自分が先生に!?

補助職員 鈴木 拓海



年長すみれ組の時、親子プレイデーにて

こんにちは。名前だけでは「誰?」と思った方も少なくはないと思います。木曜日や金曜日を中心に眼鏡をかけた若い男性を幼稚園で見たことはないでしょうか?それが現役の先生では唯一、男の私です。アルバイトとして、預かり保育のお手伝いをさせていただいております。

2007年3月まで園児として在園しており、山本由香里園長先生、梢先生、路子先生とは園児時代からの顔見知りです。今でこそ先生をやらせて頂いていますが、在園時はとてもマイペースで外遊

びよりも一人で絵描きや工作をやることを好む子でした。

昨年の夏からアルバイトとして勤務しておりますが、当時はこの幼稚園で最初のアルバイトだったと記憶しております。今はどんぐり組(園児の預かり保育)の先生として勤めておりますが、初期の頃は保育部で、8月下旬頃に幼児部の仕事に入るようになりました。初勤務は土曜日でメンバーが今のちゅうりっぷ組のM.Yくん、Y.Kちゃん、A.Kちゃん、そして、たんぼ組のT.Aちゃんでした。教育や保育に関する勉強を専門的にしてなかったこともあり、この仕事を始めて3ヶ月位は、どんなアプローチをすればよいか分からず、園児からの信頼を得ることがとても不安だったことは今も覚えています。

そんな私も最近、外で子どもを見かけると「どの園児に似ているか?」、何かトラブルが起きていた場合「どう対処すればいいのか?」などといったことをふと考えてしまうようになりました。そう、気づかないうちに先生であることが精神的に染みついたのです。また、1年も勤めていると一部の親御さんからも認知して頂いており、帰りの際の挨拶だけでなく、園児との会話の中で話題が上がったことで覚えて頂けたということもありました。そして、何よりもいろいろな個性を持った子どもと接することが増えましたので、自分に笑顔を向けてくれる子が多くなりました。お陰様で、最近になって、ようやく自分が先生であるという自覚が持てるようになったと思います。まだまだ、課題を抱えている部分はありますが、自分なりに成長し続けていきますので、よろしくお願いいたします。

# 今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

★予定★

今月のテーマ  
「工夫」

## 目 標

- 友だちとアイディアを出し合い、工夫して遊びを充実させる
- 神様への思いが膨らむ

## 学年別のねがい

- (1歳) 身体をいっぱい動かす
- (2・満3歳) 友だちとのつながりを楽しむ
- (年少組) 友だちと一緒に遊びを充実させる
- (年中組) 集団で遊ぶおもしろさを感じる
- (年長組) 活動に見通しを持ちながら取り組む

## ひとこと

寒さに負けず、園庭や散歩先で元気に遊ぶ子どもたち。友だちと一緒に、体をいっぱい動かしながら過ごしていきます。学年が上がるにつれて友だち同士のつながりや関わりも深まっていきます。どうしたらもっと楽しくなるかを考え合ったり、発見したり、時にはうまくいなくて揉めることもあると思います。そんな時は、みんなで話し合いながら新たな方法を見つけていけるよう見守り、支えていけたらと思います。

## 今月の聖歌

「おそいくるライオン」

## 今月の歌

「カレンダーマーチ」

日	曜	行事などの予定
1	土	元日
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	就労家庭保育実施日
9	日	
10	月	成人の日
11	火	始業式
12	水	園内研修
13	木	
14	金	全体礼拝
15	土	就労家庭保育実施日
16	日	
17	月	
18	火	社会見学（予備日 20日）
19	水	聖書研究⑥
20	木	
21	金	全体礼拝
22	土	就労家庭保育実施日
23	日	
24	月	個人面談（31日まで）
25	火	連絡係集まり
26	水	1月生まれ誕生会
27	木	
28	金	全体礼拝
29	土	就労家庭保育実施日
30	日	
31	月	



# チャプレンのページ

## 神様に従う



「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

ルカによる福音書 第2章 40節

「Never give in」という言葉があります。決してあきらめないと訳せばよいでしょうか。試練と乗り越えねばならないことの連続とも思われる人生を歩いていく上で、日頃より頭に入れ、理屈抜きにこうした生き方ができるよう、私たち自身はもちろんのこと、子どもたちにも伝えていきたいことではないかと思います。

12月には子どもたちの聖劇礼拝を通して、イエス・キリストの誕生物語について学びを深めましたが、クリスマスの物語はまさに、ヨセフとマリアの never give in と言ってよい物語ではないでしょうか。

課税を目的とした人口調査が行われることになり、おふれに従ってヨセフとマリアは住んでいたナザレから、約180km離れたベツレヘムへの旅を余儀なくされました。すでに臨月を迎えていたマリアにとって、この旅は命を脅かす危険なことでした。しかし命令は厳しく、臨月だという事情も考慮されなかったのです。ヨセフとマリアは神様のみ守りだけを信じて、後半は険しい山道の続くベツレヘムへと向かいました。

ベツレヘムに着いてみれば、同じ目的でベツレヘムを訪れていた人たちですすでに町はごった返しており、彼らが泊まる宿屋はありませんでした。今にも子どもが生まれそうなのに、宿屋にいる人たちは皆、自分のことで精一杯、ヨセフとマリアの状況を見て泊まる場所を用意してくれる人はいなかったのです。イエス・キリストはそうした中で生まれ、産着にくるまれ、生まれた赤ちゃんが寝かされるには最も適さない、飼料おけに寝かされました。

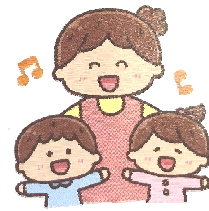
このようにイエス・キリストの誕生物語は、ヨセフとマリアの大変な試練の物語でもあるわけですが、もし、彼らがどこかであきらめてしまっていたならば、この美しいクリスマス物語もなかったことでしょう。一つの命をこの世界に誕生させるという、神様からの大きな使命を、ヨセフとマリアは never give in の思いで成し遂げたのです。

近年、苦難や忍耐を肯定的に捉えようとしないう若者が増えていると指摘されています。学びにしても仕事にしても、苦勞するのは自分に向いていないからで、さっさとやめて自分に向く新しい学びや仕事を見つけた方がよいと考え、一概に苦難と忍耐から逃げているわけではないとしても、地道に取り組んでいくことに意義を見出しにくくなっているようです。

聖劇礼拝に取り組んだ子どもたちに、ヨセフとマリアが示した never give in の思いを持ってもらえればと思います。聖書は、自分に与えられた力、知恵をすべて出し切ったところに、神様の出会いと救い、恵みがあると伝えていきます。今学期も子どもたちに、冒頭の聖句の通り、「たくましく」育ってほしいと願います。

(チャプレン 鈴木 伸明)

# クラスまどの窓



## つくし組

ないない～！できたよ!!



つくし組が最近頑張っていることは朝の支度をすること。いつもは保育者がタオルをしまったり、掛けたりしていましたがお手伝いする子が多かったので自分たちで支度ができるように環境を整えてみました。

朝、保育者が鞆からタオルとエプロンを出して「これないないしてくれる」と聞くと「はい！いいよ」と言って自分のマークを探したり、給食用とおやつ用のかごと

にらめっこし「どっちにこのタオルを入れようかな」と悩む子がいれば「両方こっちに入れちゃえ」と大胆に入

れる子がいたり様々で面白いです。タオルを掛けるのは難しいので苦戦する子がいたり、マークを間違えてしまう子がいますが保育者が気付いて直す前に「違うよ～こっちだよ」「そこは〇〇ちゃんのだよ！」と子どもたちで教え合っているのを見るとマークの認識はもちろん、言葉で伝えられるようになっているなんて！と感心してしまいます。切磋琢磨とはこういう事!!6人力を合わせ助け合いながら過ごしています。

## もも組

いろいろな人に見守られて



川越の街は観光客の方で賑わっていたり、道行く人もとても親切で挨拶や、話しかけてくださる方がたくさんいます。校外学習の中高生に「かわいい」と言われ手を振られるとアイドルのように手を振り返す子どもたちは初雁幼稚園の広報のようです。ある日の散歩では動いていないショベルカーを見つけ、その前で「動かないね」と無邪気におしゃべりしていました。するとお兄さんが「ちょっと待っててね」と言ってさっと動かし始め作業を見せてくれました。目の前で動く働く車に前のめりになって目を輝かせる子どもたち。興奮冷めやらぬままお兄さんに「ありがとう」と伝

えて帰りました。またある時はお店の外から「お魚がいるよ！」と発見し、じーっと見ていると「中で見ていいよ」と快く迎えてくださったお店の方がいました。中に入らせていただくと水槽の中に綺麗な色の魚やエビがいて興味津々で見っていました。こんな風に日々の生活の中でいろいろな人といろいろな形で関わりながらたくさん発見して成長して行ってほしいなと感じています。

## ちゅうりっぷ組

経験を積み重ねて羊に

11月下旬、クリスマス飾りをしたり、聖劇の歌がすみれ組から聞こえてきたり、だんだんとクリスマスに向けた準備が始まりました。ちゅうりっぷ組でも、ピアノで聖劇の曲を弾くと、「この歌聞いたことある」と子どもたち。ある日、羊の歌を弾いてみると、「ひつーじーさん」と歌い出す子が何人かいました。「去年ピンクさんだった子は知ってるよね！みんなに見せてくれる？」と言うと、「私だって知ってるよ！」と元気な声があちこちから聞こえてきま

した。見様見真似でみんなで歌うと楽しかったようで、自由遊びでも歌う声が聞こえてくるようになりました。少し経ってサンタさんからのプレゼントで衣装が届きました。大喜びで衣装を着てホールに向かい、すみれ組、たんぽぽ組に羊の歌のお披露目をしに行きました。意気揚々と向かった子どもたちでしたが、いざホールに入ると、真剣に取り組むすみれ組の姿があり、少々緊張気味のちゅうりっぷ組。そんな経験を積み重ね、聖劇礼拝では素敵な羊を披露してくれました。祭壇の階段に登ったりと自由気ままな羊たち。来年はきっと導きの星を立派にやり遂げるのだらうと想像すると、子どもたちの成長がますます楽しみです！

## たんぽぽ組

来年への思いや期待が溢れた瞬間

11月半ば頃より、たんぽぽ組でも少しずつ聖劇の練習を始めました。クリスマスのお話をした日から、聖劇を楽しみにする気持ちが子どもたちから伝わってきました。練習の中では「ユダヤの空に」の1番と2番の歌詞をどうしても逆に歌ってしまうこともありました。「博士さん私たちがご案内します」この台詞を子どもたちが博士の姿を見ながら言っていたことには驚きました。このクラスらしい真っ直ぐな想いが感じられました。「導きの星」という役を大切に、誇りを持って演じようとしていることに、嬉しくなりました。聖劇を迎えるまでの中で順調に進むこと、そうでないことを24人で一緒に経験していきました。それぞれの成長、またクラスとしての成長が確かに感じられる時間でした。

本番を終えて、子どもたちからは来年を見据える声が聞こえてきました。また一つ子どもたちの中で来年への思いや期待が溢れた瞬間だったと思います。

## すみれ組

初雁っ子サンタからの温かいプレゼント

11月からすみれ組の大きなクリスマスツリーに飾りをつけ、クリスマスのお話を聞き、聖劇礼拝への気持ちが少しずつ膨らんでいたすみれ組。聖劇ごっこを通していろいろな役に挑戦し、やりたい役を決めていきました。役決めの日、第一希望になれなかった子の目には涙が溢れましたが、友だちのそんな姿を見て「そうだよ、やりたかったんだよ」と寄り添おうとする声や、「別の役に動くよ」と快く移ってくれる声もありました。温かい優しさを感じながら、それぞれの思いが交差し、時間をかけて決めた大切な自分の役。どれもイエス様誕生の話には欠かせない大事な役であり、登場する全ての役を一人一人が大切に思っていることが練習を重ねるごとに感じられました。

そして迎えた聖劇本番。何か大切なことがある時必ず「エイエイオー！」と気合を入れるみんな。その効果はやはり絶大でした。その場にいる自分たちで確認しながら友だちと共に頑張る姿、堂々と歌いセリフを言う姿はとても頼もしく、輝いていました。脇で見守りながら、そんな立派な姿に感動すると同時に、小学生になる姿も想像され、嬉しくも寂しい思いでした。

「大人にはサンタさんは来ないでしょ」と言われたけれど、その場にいる子どもたち全員で作上げる素敵な聖劇礼拝が、初雁っ子サンタからの温かいプレゼントでもあった気がします。

## どんぐり組

家族のように一緒にいるみんなでクリスマス

冬休みに入ると一日中みんなで一緒に過ごすどんぐり組。午前中は近くの公園や散歩に行ってお出かけします。昼食後、年中小組はゴロゴロタイム。年長組は静か遊びの前にひと仕事してくれます。ブロックなどいつも使うおもちゃを拭いたり、ウッドデッキ工事で物の移動を手伝ってくれたり。そんなみんなのために働いてくれる姿を見るからでしょうか。片付けの時間も、1学期より進んで友だちの分まで片付けてくれる子が増えてきました。寒くなり夕方暗くなるのが早くなると、室内遊びの時間が増えます。ウッドデッキ工事の間は、午後は室内で過ごし

ます。「毎日室内で過ごすのは飽きないかしら」の心配をよそに、子どもたちは遊びを上手に見つけています。「クリスマスが近づいたから、お部屋を飾る輪飾り作りをしよう！」と輪飾り作り。冬休みならではの毛糸のリリアン作りやあやとり。今まで遊んでいたミニカーと積み木を合体させて、道路を作って積み木に高さをつけて坂道を走らせるコースを作ったり、友だちと一緒に遊ぶも発展していきます。24日にはミニクリスマス会をしました。ホットケーキを自分たちでデコレーションして、ケーキを作って食べました。家族のように一緒にいるみんな、楽しいクリスマスを迎えました。

# わが家のまど



## (228) かけがえのない経験に

事務 山岡 結



2年ほど前から一人暮らしを始めました。一人暮らしで感じたメリットは①とにかく自由、②物の紛失が激減する、③今までにない経験ができる、デメリットは①実家にいた時ほど貯金ができない、②栄養を取るのに苦労する、③寂しさを感じる、です。

家探しから始まり、料理や家事、掃除、部屋のメンテナンスなど今までにないことをたくさん経験して達成感を得、何でも自由に選択し、自分のペースでできることがとにかく楽しいと感じました。それと同時に、すぐそばに話し相手がない寂しさ、全て自分でこなさなくてはならない大変さもたくさん感じました。特

に、私の気づけなかった生活に必要なことを親が担っていたことがわかり、すごくありがたみを感じました。

そんな私でしたが、年明けに実家に戻ることにしました。この経験を通してわかったこと、それは、私は誰かと一緒にいるのが好きだということでした。どんなにイラっとしても、お風呂を急かされても、ヒートテックや靴下が誰かのものと混じっても、それでも実家に戻りたいなと思ったのです。一人の時間も好きですが、それは普段は誰かと共に暮らしているという安心感がベースにあった上でのものだと感じました。また、何でも自分でやってみるという経験をしたことで、自分の中で何かが満たされた気がします。

一人暮らし2年弱、早かったなあと感じます。短い間でしたが、この経験は私にとってかけがえのないものとなりました。楽しかったー!!!!



# 今月の聖書のおはなし



## ☆ 1月14日「少年サムエル」

サムエル記上 3 : 1~10

ある夜のことで、サムエルが神殿で寝ていると「サムエルよ」と呼ぶ声がします。サムエルは、エリに呼ばれたと思い、エリのもとに行き「お呼びになったので、参りました」と言いました。しかし、「私は呼んでいない。戻っておやすみ」と言われました。サムエルは戻って眠りますが、再び呼ばれます。しかし、またしても呼んだのはエリではありませんでした。このようなことが3度続きました。エリは、サムエルを呼んだのは神さまだと悟り、サムエルに次に呼ばれたらどう答えるといいか伝えました。再び呼ばれたサムエルは、エリに言われた通り「どうぞ、お話しください。僕は、聞いております」と言いました。すると、神さまはこれから行おうとしていることをサムエルに告げました。

## ☆ 1月21日「ゴリアトとの戦い」

サムエル記上 17 : 1~11、48~50

ダビデは王宮でサウルに仕えるようになりました。彼は豎琴を上手に弾き、王様の心は休まりました。ペリシテとの戦いが始まりました。敵の戦士ゴリアトは一騎打ちをする者はいないかと言いました。ゴリアトを恐れて誰も出ていきません。戦いに出ている兄たちに届け物をしに来たダビデは王様に戦うと申し出ました。ダビデは鎧も甲もつけず、川岸から滑らかな石を5つ選び投石袋に入れて行きました。ダビデの投げた石はゴリアトの額に命中し、倒しました。

## ☆ 1月28日「ヨナタンとの友情」

サムエル記上 20 : 17~42

サウル王は、家臣たちに命じて、ダビデを殺そうとしていました。王の息子ヨナタンは、ダビデのことを自分自身のように愛していました。だから、ヨナタンはダビデと契約を結び、ダビデは新月祭の3日目の夕方まで野原に隠れていることにし、王が怒り、危害を加えようとしているならば知らせるとしました。さらに次のような誓いを立てました。明後日、ダビデはエゼルの石の傍らに言い、新月祭の食事の席で王がダビデのいないことに気づきそうすると決めたら、矢を3本放って知らせると話しました。3本の矢を射て、従者に矢を見つけてくるように言った後、「矢はお前の手前にある、持ってこい」と声をかけたら出てきて大丈夫。主は生きておられ、ダビデは無事で何事もないと。しかし、従者に「矢はあなたのもっと先だ」と言ったら逃げるようにと。新月祭の食事の席に1日目も2日目もダビデが来ないことに王は怒りました。ヨナタンは、後者の知らせをしなければならなくなってしまいました。知らせたあと、ヨナタンは従者を先に帰し、ダビデとともに泣きました。